

SSKW

ダルク女性ハウス

ニュースレター



イラストエリ

■私たちは彼を失った悲しみを、今、目の前にいる、苦しんでいる仲間と共に時間を過ごすことでしか埋めることはできません。 ■ はるえ

一緒にダルクを立ち上げた近藤恒夫氏が亡くなりました。癌との2年にわたる闘いを奥様や仲間たちに支えられながら、天国に旅立ちました。最後まで治療をささえてくださり本当にお疲れ様でした。最後の最後まで近藤恒夫、自助グループ名「ブルート」として生きました。2016年にパートナーシップを解消するまでは自助グループ活動を共にし、ダルクのありようをずっと二人で考えて行動してきました、様々な人達が支えてくださいました、どんなに感謝をしてもたまりません、本当にありがとうございます、そしてこれからも「発展途上にあるダルクという集団」をどうぞよろしくお願いします。海外にいる同志たち、私たちと同じように自助グループメンバーであり、薬物依存症の支援を担い、薬物依存症のスティグマを取り除く活動している仲間たちは自分たちの「感謝」を社会に返していく活動の段階にあります。次は、ダルクが施設を運営するだけではなく、建物を建てることでもなく、多角的な運営をすることでもありません、文化的な貢献を例えば「ダルク基金」を作り、優秀な研究を表彰する、優秀な治療機関を表彰する、長年に渡る薬物依存症に貢献してきた方を表彰する、海外の新しい薬物政策を研究するために人材を派遣するなど、広く薬物依存症で苦しむ家族や当事者に行き渡るような活動を始める時期です。(海外の仲間たちは実行してるからね)例えばビギナーに聞く「刑務所の教育担当さんはどこがいいのか?」「どこの保護観察所がジェンダー視点に配慮があるのか」「最悪の状

態で山のような問題を整理するのを手伝ってくれたワーカーさん大賞」などかなー。たくさんあるね。笑

2016年に名古屋ダルクの外山憲治さんが亡くなるまでは、大阪ダルクの倉田めばさんと私たちはダルクをめぐる問題やトラブルを連絡を取り合い対処してきました。2006年にロイ神父が亡くなるまでは、毎日、朝のモーニングコーヒーを飲むことが日課でした。（まだその喫茶店はあります）

衝動的に行動してしまうことはたくさんありましたが、ロイさんがいつもずーっと伴走してくれました、2人が助け合っているようにも見えました。

東京ダルクの家族会の方たちには3年くらいするとできてしまう300万円くらいの借金をいつも返してもらっていましたが、ありがとう本当に、心から。

一番初めのダルクの電話は自助グループメンバーのキヨシさんが買ってくれました、近藤が海外に行く時は施設に泊まりにきて留守番をしてくれました。彼はバリバリのエリート社員だったのですが、着替えを持って自助グループから仲間と共に施設に帰っていく姿が忘れられません、そんなふうに近藤には後ろで支えてくれる人がたくさんいました。

30年前くらいにつながった女性の仲間たちから電話があり近藤の思い出を何人かとしましたが、一緒にミーティングに歩いて行ったこと、唐揚げ弁当の唐揚げを取られたこと、薬が止まらなくて家に帰れなくて道にいたら、さっきの喫茶店でロイさんと二人で何も聞かずに黙ってずーっと一緒にコーヒーを飲んでくれたことなど、いつも薬をやめられない人たちのそばにいました、絶対に依存させてくれなかった、薬がやめられなくてもただ笑っていたと、人のお弁当を盗むのが大好きだったので近藤の前では仲間たちはお弁当のふたを開けずに盗み食いされないように食べていました、その時の仲間たちの必死の顔が浮かびます。合掌

次々と書かれるマスコミの近藤評がマジ本当に「カリスマ化」して微妙にその媒体の色に染まるのが面白いね。

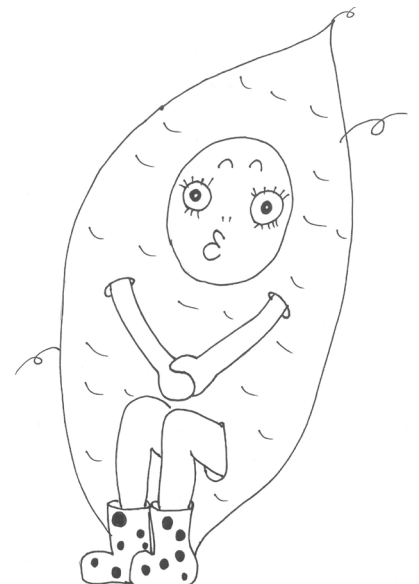
■やっこさっこここで■

今年フリッカに繋がって3年目になる所です。繋がった時は、愛犬がもう高齢で病気をされていて、いつ急死してもおかしくないと、獣医さんに言われていました。とても心配で気になって、フリッカに通えませんでした。バイトを一日だけして、あと2日位は通所をしていました。生活費もとても苦しい時が続きました。

私は調子が悪くなると、幻聴、妄想が酷くなります。とにかく仲間に入れなかったです。それでも、フリッカに行った日は、スタッフは、お米をくれたり、仲間がご飯を包んだサララップに絵をかいてくれたりしました。沢山の優しさや、気遣いを何度も何度もくれました。

私は初めの頃は、愛犬が、長生きしてくれればと、自分の気持ちばかりで、周りが見えて無かったです。優しさが伝わって来たのは、後から後からでした。

いしん



愛犬が旅立た時も、ただ一緒にミーティングしてくれたり、ただ一緒に過ごしてくれました。私は、温かいなと思いました。凄く辛い時ほど温かさは染みます。

私が調子を崩し入院の時も、味方だよとか、一緒に入院先まで送り出してくれました。お世話になったケースワーカーさんにも、感謝しています。入院先でもお世話になりました。

入退院を繰り返してるにもかかわらず、少し良くなったら、ぶんちゃんおはよーと何時もと変わらず声を掛けてくれる仲間やスタッフがいます。

週一回ヘルパーさんとお掃除や片付けしてます。

ハウスに通って応援団が、少しずつできて生活は昔より豊かになりました。仲間から良い刺激や気づきや自分の欠点などに気付かされたり、私もやってみようと思えることが沢山あったりします。

私は、周りを傷付けて怒らせたりしました。本当にごめんなさい。それでもハウスは、居てもいいよ。生きていていいよって言ってもらってる気がして有り難く思います。

生活がおぼつかない感じで、やっとなんだけど、一緒に歩いてくれるお医者さん、スタッフ、ケースワーカーさん、ヘルパーさん入院先のスタッフの方々、そして仲間いつも有り難うございます。

■入寮生活を振り返って■

まき

昨年の四月に入寮し、間もなく一年が経とうとしている今、少しずつ退寮の話をし始めています。

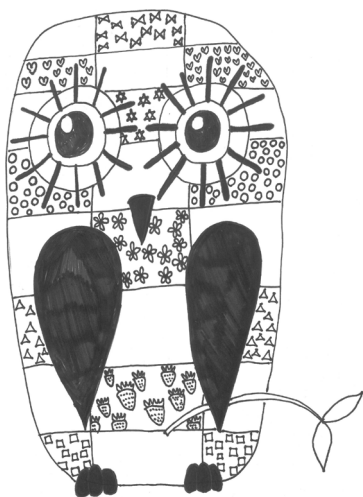
コロナ渦に入寮し、規制の多い生活を続け、何かとストレスを感じる事の多い入寮生活でしたが、退寮の話し合いもまたスムーズに行うのが難しく不安がつのるばかりの日々に、疲れと焦りを感じています。

今一番の不安は、今後どうしたら飲まずに生活できるのか、ということ、今までの約一年間飲まずに生活できたのは、波風をたてず、出来るだけ早く退寮したいという思いだけに支えられてきたので、退寮しその気持ちの面での支えが無くなった後どうしたら飲まずに生活することが出来るのかということです。

まず、退寮したその日が不安で、振り返るとあっという間だったけど日々積み重ねるのは大変だった入寮生活を終えた自分に絶対に何らかのご褒美をあげたくなるのは目に見えていて、今までの私だったら、それはお酒で、今の私はお酒に代わるものをまだ見つけられていないからです。

退寮した後は入院していた病院のデイに通いながら、少しずつ社会復帰を目指す事になっていますが、その間も、社会復帰後も様々なストレスや、たまに自分にご褒美をあげたくなる事があって、その度に私の頭にはアルコールがよぎると思いますが、その都度飲まない選択を積み重ね、その選択を積み重ね易い考え方や生き方を模索しながら、自分に優しく穏やかに生活していけるようになりたいです。

退寮したその日から、飲まずに生きる人生の本番だと思っています。くじけそうになった時には入寮生活で学んだ事を思い出して、ひとりで抱え込まず周りの人に相談して一つずつ乗り越えて、前を向いて歩いて行きたいと思います。



★B型日誌★

思い出の和服や反物のご寄付をお願いします。ご寄付いただいた着物でのリメイク品のオーダーもお受けしています。

たくさんの「献金・献品」ありがとうございました！

♡大切にに使わせていただきます♡

(2021.12~2022.2)

舟山智子 宗形博子 秀島かおり 和田妙子 黒川奈菜子 (株)コモン計画研究所 相澤京美
山西理恵 原田智重子 富田恵 神谷節子 古谷高子 西村武四郎 スギモトマキコ 丸山陽子
伊藤いずみ サカモトK 三井富美代 宇田川淑恵 市原誠 臼井美恵子 原和夫 北区保護司会
五十公野けい 若草プロジェクト 梅野充 NPO 法人リカバリー 細川幸子 遠藤めぐみ 匿名希望
2名（敬省略 順不同）

★今後ともよろしくお願い致します。(^^)♡

NPO 法人ダルク女性ハウス賛助会員募集

- 年会費一口 2000 円（ニュースレター購読料を含む）頒価 1 部 100 円
- 郵便振替口座 00140-2-591609
- 他金融機関からの振込用口座番号 店番019店（ゼロイチキュー店） 当座 0591609

発行人：157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

編集人：114-0014 東京都北区田端 6-3-18-301 特定非営利活動法人

ダルク女性ハウス [URL:http://womensdarc.org/](http://womensdarc.org/)

